

## 令和6年度横瀬町総合教育会議会議録

招集日時 令和6年6月25日(火)午後3時

招集場所 横瀬町役場 301会議室

開会時刻 午後3時

閉会時刻 午後3時50分

会議の主宰者 町長 富田 能成

町長 富田 能成 出席

教育長 山中 正広 出席

出欠席状況

教育委員 町田 和子 出席 野田 眞 出席

平塚 一寛 出席 久米 真由理 出席

その他議場に出席した者

教育次長 町田 一生 主幹 浅見 陽子

説明者

教育次長 町田 一生

教育長 山中 正広

会議録署名 山中 正広

次第

1 開会

2 会議録署名委員の指名

3 議事

(1)教育に関する大綱の制定について

(2)令和6年度の教育方針について

4 その他

5 閉会

会議の進行状況及び顛末

1. 開会 午後3時

町長 あいさつ後、出席者を確認し、令和6年度横瀬町総合教育会議の開会を宣言す。

2. 会議録署名委員の指名

町長 会議録署名人については、山中正広教育長を指名す。

3. 議事の概要

町 長            それでは、議事に移ります。  
                  始めに、「（１）教育に関する大綱の制定について」を議題といたします。  
                  事務局の説明をお願いします。

                  「はいの声あり」

町 長            教育次長。

教育次長        それでは、説明をさせていただきます。  
                  教育に関する大綱の策定は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の３の規定に基づき、町長は教育基本法に規定する国が示す教育振興基本計画を参酌し、その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものとするとして規定しています。  
                  令和６年度は、第６次総合振興計画の後期４年間でスタートし、この計画と合わせまして、教育委員会におきましても令和６年度から令和９年度までとした横瀬町教育振興基本計画を策定いたしました。  
                  今年度につきましても、この横瀬町教育振興基本計画をもって大綱としたいと考えております。この点についてご審議をお願いできればと思います。以上でございます。

町 長            ただ今、大綱制定について事務局より説明がありましたが、質問等があればお伺いしたいと思います。  
                  教育振興基本計画も第６次総合振興計画と整合性を図りながら策定をしているところでございます。教育振興基本計画は、本町における教育振興のための施策を総合的かつ計画的にするための基本的な計画となっておりますので、そこをリンクさせていくということによろしいでしょうか。

                  「はいの声あり」

町 長            それでは、ここで質疑を終結いたします。  
                  お諮りいたします。  
                  横瀬町における教育に関する大綱については、横瀬町教育振興基本計画をもって大綱とするということでご異議ございませんでしょうか。

「異議なしの声あり。」

町 長 異議なしと認めます。  
それでは、大綱については、横瀬町教育振興基本計画をもって大綱とすることに決定させていただきます。

町 長 次に「(2) 令和6年度の教育方針について」を議題といたします。  
事務局の説明を求めます。

「はいの声あり」

町 長 教育次長。

教育次長 それでは、説明をさせていただきます。  
横瀬町教育振興基本計画の6頁、第3章をご覧ください。  
基本理念は、「色彩豊かな美しい町・多様な幸せのある町(カラフルタウン)という町政の基本理念に基づき、横瀬町民憲章や埼玉県教育行政重点施策をふまえ、次代を担う子供を育てる教育行政を推進する。」となっております。  
目標、基本方針に基づき資料10頁に「横瀬町教育行政の施策の方向性と主な取組」を具体的に掲載しております。  
また、こちらをまとめたリーフレット「令和6年度横瀬町の教育」にも重点施策として掲載しております。今年度は、この方向性で進めて参りたいと思っております。  
なお、詳細について、教育長よりご説明させていただきます。

教育長 「はいの声あり」

町 長 教育長。

教育長 変更点について説明させていただきます。  
資料といたしまして、第4章横瀬町教育行政の政策の方向性と主な取組の変更版にあたるものと横瀬町総合教育会議資料をご用意いたしましたので、併せてご覧いただければと存じます。  
まず、教育振興基本計画は、町の計画に合わせまして、令和6年度から令和9年度までの4年間の計画となっております。今年度については、第3章の変更はございません。  
今年度は、後期計画の初年度ということで教育関係指標の現状にもありますが、基準値及び最終年度の目標値を資料で示させていただきます。

続きまして、主な変更点について説明させていただきます。

まず10頁の「1 確かな学力の育成」、「(4)時代の変化に対応する教育の推進」の中に「chromebookと電子黒板等」を追記しました。

「(5)小・中学校9年間を一貫した教育の推進」中に「中学校入学予定者を対象とした中学校授業の体験」を追記しました。

続きまして11頁、「2 豊かな心の育成」、「(1)豊かな心を育む教育の推進」中に「体罰・性暴力等調査の実施」を追記しました。「(2)いじめ防止対策の推進」で、「体罰調査の実施」が見え消しになっていると思いますが、今回性暴力等の調査の実施と合わせ(1)に追記しました。

続きまして、13頁「6 学校における働き方改革、教育の質の向上の推進」、「(1)教職員の負担軽減」中に「余剰時間を削減し、年間授業時数を適切に設定」を追記しました。

続きまして16頁「14 文化芸術の振興と伝統文化の継承」、「(2)文化財の適切な保護・保存及び活用」中に「地域文化財総合活用推進事業の実施」を追記しました。

以上が主な変更点でございます。

町 長 教育長から説明がありましたが、みなさんからご質問やご意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、ここで質疑を終結いたします。

お諮りいたします。「令和6年度の教育方針について」は、ただいま審議がされたとおり、ご了解いただけますでしょうか。

「はいの声あり」

町 長 それでは、「令和6年度教育方針について」は、先ほど説明させていただいたとおり、決定させていただきます。

町 長 次に「その他」でございますが、事務局から何かありますか。

事務局 「特にございません。」

町 長 それでは、私の方から今期について、少しお話をさせていただきます。

今期は、総合振興計画の下期のスタート年度になります。

昨年1年間かけて、下期4年間の計画を作りました。骨格は変わっていませんが、「ウェルビーイング」という概念を入れて各柱ごとにウェルビーイング観点で目指すべき指標を入れていきます。横瀬町

は、カラフルタウンを掲げていて「多様な幸せが花開く町」を掲げていました。一方、「ウェルビーイング」という言葉は比較的新しく、行政運営の分野で使われるようになったのは2021年からです。ですから元々私たちがやっていたことが、後から「ウェルビーイング」という定義ができたので、横瀬町はこれまで「多様な幸せが花開く」を目指して色々なことができていて、例えば学校教育では、慶応大学の前野先生に横瀬町に来ていただいて、幸福学の授業をしていただき、それを引き継いで毎年小学5年生が授業で続けていたり、それから「ウェルビーイング」の活動を始めている民間企業も出てきているという背景もあり、今回は、「ウェルビーイング」を入れています。先ほど申し上げましたように、元々やってたことなので、特に何か変わるということではないと理解をしていただければと思います。

それから、下期4年間の初年度の今年に関してお伝えしたいことが二つあります。

まず一つは、機構改革を令和7年度の4月に計画をしています。役場の組織を機構改革として再編成するというのを考えています。

機構改革の柱は二つあります。一つは、環境課を新設したいと思います。今、建設課の中に下水道、浄化槽担当があります。それから振興課の中に環境分野を担当している担当があります。これを合わせて一つの課にしたいと思います。

趣旨は、昨今やはり環境分野は非常に重要ですので、目的意識をより強く持っていきたいということと、それから環境とした方が、例えば補助金や国・県の政策とリンクさせるときにやりやすいので環境課を作るというのが一つです。

もう一つは、教育委員会の町民会館移転を4月にスタートしたいということで、今準備を進めています。大きな目的は三つあり、一つは、教育委員会の中に社会教育、特に社会体育を担うチームが休日出勤が非常に多く、代休取得がなかなか難しい状況になっています。それが町民会館に行くことによって、人員が効率よく配置をされ、かつ休日の割り振りが少し楽になるであろうということがまず一つです。

二つ目が、コロナ禍を経験して、オフィスのスペースに一定の間隔と広さを取りたいというところです。この役場本庁舎が人口が増えている時期に作った割には狭目の設計になってしまっていて、パソコンが入ったことが大きいのですが、パソコンがあると1人当たりの必要スペースが昔より必要になっていて、オフィスが密になっているところがあるので、そこも考えました。とりわけパンデミックの状況を考えると、一つの建物にいるよりも分散した方がリスク軽減にもなるというところがあります。

三つ目が、いま中心地形成が少しずつ進んでいきました。町民会館が元々機能していて、隣でコミュニティスペースエリア 898 ができて、そこに色々な人が集まるようになったことで街中が形成され始めたので、そこに常駐の人が一定割合いるということはやはり意味があるというふうに思っています。町民会館の運用は、月曜日が休館になっていますが、月曜日でも町民会館を開けることができるので、それらを勘案して教育委員会を町民会館にすることを進めたいと思っています。

いい面もあれば悪い面もあります。わかりやすくいえば、教育長と遠くなることです。この会議も下から上がってすぐ来れるじゃないですか。少し距離ができるということは、それは近い方がいいと言えます。両天秤にかけたときに、どちらが今の横瀬町にとってあるいは、先々考えていいかというところ、ここは決断のしどころと思います、今回の環境課を作ることとセットで令和7年4月にスタートしようと思っています。機構改革の話が今日は1つさせていただきかけたお話です。

もう一つは、今期、後期の4年間のスタート年度に当たって、役場職員と共有している重点テーマが三つあります。

一つ目が「対話」。二つ目が「連携」。三つ目が改めて「チャレンジ」です。「対話、連携、チャレンジ」を今年は重点テーマとして皆で頑張っていこうという話をしています。

まず「対話」ですが、去年は「まちの声」を重点テーマにしました。「まちの声を聞く」は、実際色々な実践をして、私も色々なところに出て聞きました。やはり、聞こうと言っても聞くことは難しいですね。なかなか各地区に出て話を聞いても、もちろん区長さんの声は聞こえるし、広く住民の皆さんの声も聞こえて工夫が必要だなと思いました。人の本音は、やはり対話をしないと見えなところが多分にあると思っています。特に対話は難しいです。まず相手を尊重しなければいけないという前提があって、それから相手の話を聞くスキルが必要です。これが実はできてるようでできていなくて、自分もよく反省するのですが、相手と対等な立場であるという前提で相手を尊重し、自分が言いたいことを少し我慢して相手の話を聞く。そこを今年みんなでプラクティスしていきたいと思っていますので、対話の研修機会や学びの機会を作りたいと思いますし、町中に出て色々な対話の場面も作って欲しいということは今職員と共有しています。大変難しいのは、会話は必ず結論が出るわけではないですね。議論ではないので、無駄話で終わることもあるので、時間は我々公務員や役場職員が労力をかけて、それに見合う何かがあるか、その場でできないかもしれないけれど、今年是对話したいということです。対話をする癖や経験があると、その後色々な調

整もできると思いますし、町の状況でいくととりわけ一人暮らしの人が多くなって、孤独を感じている人が対話するだけで心が楽になることもあると思いますので、私たちもそうですし、区長さんや民生委員さん、町に携わる人たちが其処彼処で対話していただくことをぜひ今年は推進していきたいと思っておりますのでよろしく願います。

「対話」の次が「連携」です。「連携」は、横瀬町役場はずっとやってきましたが、大事な局面かと思っております。おかげさまで今色々なところで色々な事業の芽が出てきていて、それを違うところで使うとか、あるいは住民の皆さんと、例えばよこらぼを一緒に共有してやっていきたいなというふうに思っています。

「対話」と「連携」で、次が「チャレンジ」です。改めて「チャレンジ」を上げますのは、そこまでもチャレンジはしてきてるのですが、一つは人口動態がここから踏ん張りどころに入ります。

令和5年度でいきますと、亡くなった方が154名。一方、出生が34名。過去最小最多です。このまま何もしないでいるとワニの口がどんどん広がっていくわけで、これをなんとかしたいのですが、自然増減はなかなか難しいところがあり、亡くなる数はコントロールができませんが、出生数は少し頑張ることができます。いわゆる社会増減は「移住者を増やす」ということがとても大事だと思っております。

一歩踏み込んでチャレンジをしていくということで、社会増減でいきますと、横瀬町の人口動態には特徴があります。年齢別で見ると一目瞭然で、とにかく18歳から20代が圧倒的に毎年マイナスになります。これはこの町の構造ですが、高校がない、大学もない、専門学校もない町で就職はおそらく外であるのが普通の町です。何もしなければ、20代の人口の流出が増えて、他で埋めているのが今の状況です。

そうは言っても移住者が増えてきて±、-10、-13ぐらいに抑えてきているのでよくはなっているのですが、もうひと踏ん張りです。そのために20代中心の若者を呼び込むことはすごく大事ですので、地域おこし協力隊もそうですし、そのインターン制度やいま大学との連携を大事にしている、16の大学の学部と連携をしているのですが、そんなチャレンジを一歩踏み込んでしていきたいところで改めてチャレンジをあげています。

最近の状況でいい話で言いますと先週、大東建託が住宅情報メディアの「いい部屋ネット」で毎年アンケートを取ってランキングを作っています。「街の住み心地ランキング」、各自治体2024埼玉版を出していただき、その中で住民の皆さんにアンケートをとって答えていただいた集計がランクづけられています。「生活利便性」、「交

通利便性」、「行政サービス」、「親しみやすさ」、「静けさ・治安」、「物価」、「家賃」、「災害対応」の8項目中で「行政サービス」は横瀬町が一番でした。埼玉県の63市町村あるうちの62の市町村とさいたま市が区ごとに出ていまして、72の分母で行政サービス部門で横瀬町が1位。2位が浦和で3位が大宮です。

昨年も横瀬町が2位になりました。1位が浦和で今年は1番。偏差値73でした。これは何が言いたいのかといいますと行政サービスが評価されたのは嬉しいのですが、これは私がというよりも、やはり住民の皆さんのアンケートの結果だとすると、やはり接点だと思ういます。行政サービスを受けた接点。だから、窓口に行っていていい対応をしてくれるとか、あるいはいい補助金があるとかかもしれないし、やはりお子さんがいるご家庭が学校の対応が良いとか、それも含めての行政サービスと思っています。ですから町の皆さんに自信を持ってほしいですね。もちろん町民の全員に聞いているわけではなく、回答数が50人でしたが、それでも2年続けて行政サービスで良い評価をいただいています。親しみやすさも2番、防災が3番で72の中で評価が高かったですね。ただ、県南と一緒にランキングなので賑わいはもちろんないし、生活利便性や交通利便性は下位なので、総合ランキングは出てこないですが、ランキングで取りたいところはいい結果になっていたということです。

昔はリクルートでやっていたスーモの「住み続けたい街ランキング」でもランキングに入っていたのですが、残念ながらなくなってしまったので、大東建託のランキングは貴重なので、来年以降も続けて欲しいと思っていますが、横瀬町に関わる皆さんはちゃんとこの部分は評価をされてるところでございます。

県が色々な統計の数字を出していますが、犯罪発生率で昨年度の犯罪発生率が横瀬町は63市町村で一番低かったです。だから一番治安が良い町と言えらると思います。治安がいい町は良いことですし、計画の中にも「子供の事故ゼロ」をあげてますので、そこは頑張っていきたいというふうに思っています。

少し長くなりましたが、「機構改革」の話と「対話・連携・チャレンジ」の話をお伝えさせていただきました。

これに関してご質問やご意見があればお伺いします。

久米委員

要望というわけではないのですが、先日子育て世代の保護者の方ではなく、年齢が少し上の方からワーケーションというのですか。子どもが親御さんの予定に合わせて休日を取れるシステムがニュースになって、益子町かどこかの市町村で導入しているようですが「横瀬町は取り入れているの。」と聞かれたことがあって、「横瀬町では実施していないと思います。」と伝え、「詳しくは教育委員会に聞

いてみて下さい」とお話ししたのですが、そういう声がありました。夏休みや冬休みではなく、保護者の予定に合わせて子どもたちが休暇がとれるもののようにです。

教育長 秩父地域の方から聞かれたのですか。

久米委員 横瀬の方からです。

教育長 埼玉県で行っている自治体はないと思います。

町 長 少し違いますが、昨日ある会社から提案され、ワールドクラスルームという企画で、オンラインで他の国の小学校や中学校と繋いで、コミュニケーションをとって交流するまちなか留学と称し、海外に行くのは、お金もかかるので国内の外国人家庭の家にホームステイをする話を聞いたら結構面白かったです。

教育委員会に相談したらすぐ一緒に話を聞いてくれて、やるかどうかは別にして、すぐに検討できるのは横瀬らしいし、同時にできるので、やはり小さい町は良いと思いますね。

教育長 コロナ禍前まで実施していた中学生の海外派遣をまた町として復活してもいいかなという思いが実はあって、ある旅行会社に今試算してもらっているのですが、町長から話をいただいて、東京の外国人家庭に2泊3日宿泊してもお金がかからない。オーストラリアの海外派遣は、中学生のごく限られた子しか行けない訳ですので、東京都や沖縄であれば、かなり多くの生徒を送り出すことができる。そういう機会を与えることができるという意味では、すごくいいことだと思うので教育委員会としても検討してます。

町 長 ありがとうございます。昨日の今日でこの話ができるところが横瀬町の強みですね。海外派遣をやめて、その後の形を検討しているところだったので、状況が変わってきていますね。

教育長 東京ぐらいであれば、もし急に病気になったときにはすぐ帰ってこられて、親が迎えに行くことができますからそういう意味でも非常にいいと思います。

町 長 1泊2日のコースで1万9800円でしたね。

教育次長 海外に行く3分の2でいく負担に比べたらいいですね。

教育長 町から補助しますから各世帯の負担はそんなに多くないと思います。

町 長 沖縄の会社で、スタートアップして4年目の会社ですが、とてもしっかりやっているいい会社です。沖縄起点なので、沖縄が一番ホストファミリーが多いので、修学旅行と組み合わせてもいいですね。例えば修学旅行を沖縄にして島を見学してから、1泊ホームステイをするという組み合わせにしても、オーストラリアに行くよりも安くできます。

教育長 より多くの子どもに機会が与えられるのでいいですね。  
修学旅行と兼ねるか、単独でやるかというのはまた今後検討の余地あると思います。

久米委員 実際に海外派遣で行って、すごく英語に興味を持って、高校、大学で続けることになったという声は聞きます。なかなか個人で行くことができないので、これがきっかけとなって、その後の進路に関わるぐらいまで英語に興味を持ったという声を実際に聞きます。

町 長 行った人は、いいと行っていますし、「再開しないのですか。」という声も聞きますので難しいところですね。

教育長 教育委員会としても今後前向きに検討していきたいと思います。  
ありがとうございます。

町 長 横瀬町は、ICTが先進的と周りからもよく言われていて、現場の先生方が本当によく頑張っていると色々な人の声が聞こえます。学校を休んでも授業のキャッチアップができるようになりました。ひと山越えてちゃんと使いこなしてベースになってる気がしますね。電子黒板もそうですし、本当にありがたいなと思っています。

教育長 パソコンが壊れるのを恐れて持ち帰りさせていない学校が多いのですが、横瀬町では思い切ってどんどん持ち帰らしてます。

平塚委員 自宅でよく理科の勉強をしたり、いろいろ検索して調べていますし、実際に持ち帰りさせていただいた方がありがたいですね。

町 長            6年生の子供懇談会を夏に行っていますが、去年びっくりするぐらいレベルアップして、みんなプレゼンをするんですよ。パワーポイントから作ってちゃんともものになっているのがすごいと思いました。今年も楽しみです。

町田委員        埼玉県の中には、まだ一人一台端末が行かない学校もあると聞きますね。

教育長           自治体によって、まだ温度差があると思います。

教育次長        横瀬町では、先進地視察を教員を連れて年2回行っていますが、県から紹介された先進地に行っていますが、横瀬町の方が進んでいて、先生方もうちの学校の方がちゃんとできてると自信にもつながっています。

教育長           私は、もっと発信した方がいいと思っていて、今、小中学校でお互いの授業を見合って刺激し合うことを行って、私はこれを全秩父広域に広げたいと思っています。お互いが切磋琢磨して学び合いをさせたいですね。そうすることで、当然横瀬のICTがすごいということを発信できるし、環境が整ってるところで仕事をしたいという優秀な先生が集まるでしょうからそういうことも好循環を生むと思うので、私はもっと広域に広げたいなと思っています。

町 長            町の紹介をするときにこれから横瀬町のICTが実践できていることを対外的に伝えたいと思います。

それではよろしいですか。これからも色々ご意見を伺いながら進めさせていただきたいと思います。

以上をもちまして本日の総合教育会議を閉会とさせていただきます。

本日は大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

4. 閉 会    午後3時50分